

第5回もたくさんの意見・アイデアを出し合いました！



今回出された意見やアイデア（賑わいづくりも含む）を元に、ランドデザイン構想（案）に反映し、まちづくりプロジェクトを行なっていきたいと考えています。その際は、改めてご案内いたします。



ねむろ未来塾通信

発行者：根室市総合政策部

根室の未来を創る
vol. 3
令和4年5月発行
ねむろ未来塾

根室市の未来を創るまちづくりプロジェクト 公共施設のランドデザイン構想（素案）について検討しました



今号でご紹介するねむろ未来塾のワークショップはこちら！

第5回 ねむろ未来塾 プロジェクトチーム ワークショップ



【開催日時】
2022年3月29日（火）
19:00～21:00

【参加人数】
市民 14名
市役所若手職員 12名



根室市からのお知らせ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs とはすべての人々にとってより良い未来を築くために設定された、持続可能な17の目標のことです。根室市もこれからの未来のために、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、グローバルな諸課題の解決を目指していきます。「根室市ランドデザイン」の策定においても、このSDGsを踏まえながら考えていきます。

SDGsに関する取組については、右記の二次元コードからご覧ください。

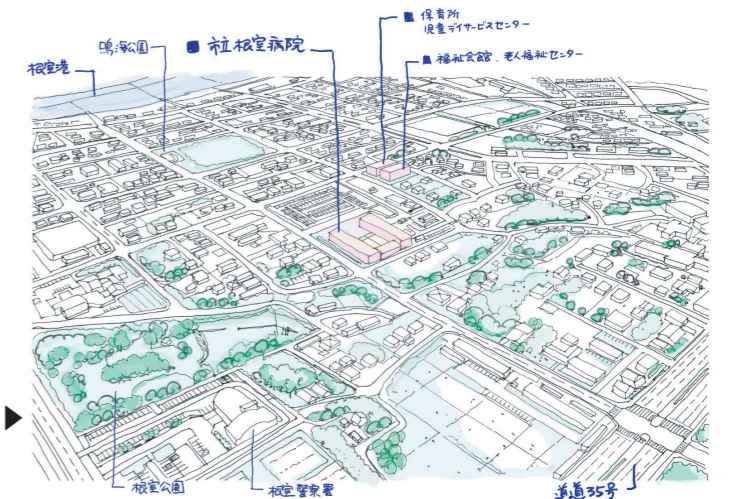


第5回は、2045年の公共施設のランドデザインと賑わいづくりについて意見交換しました！

根室市ランドデザインは令和4年度末の策定を目指し、今年度も市民や市役所職員など様々な立場の方達がチームになって、根室市の将来像について検討していきます。

第5回のワークショップでは、市街地の公共施設のランドデザイン構想素案と公共空間などを活かした賑わいづくりについて意見交換をしました。

第5回ワークショップで提示した「2045年のイメージ図」の案



ワークショップでは、ランドデザイン構想（素案）について考えました。

情報提供（一部抜粋）

2045年の根室市の将来像 コンパクトな中に豊かな暮らしがとけあう市街地

01 市街地のコンパクト化

- ・人口変動に合わせて、市街地範囲を縮小
- ・海拔から最も標高が高い市役所付近を基準に、市役所から半径3km（おおよその都市計画範囲）圏内に市街地を集約

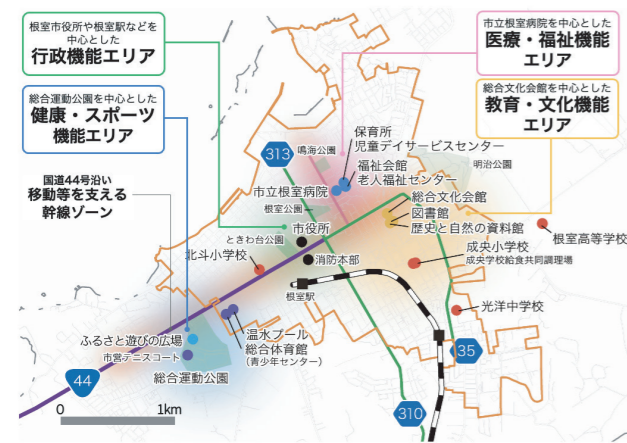
02 公共施設の統廃合

- ・維持管理費の負担軽減を図る視点から、必要性が低い施設を廃止・縮小
- ・市民生活を支える機能を中心に、公共施設を統廃合
- ・コンパクト化した中で公共施設を配置

03 エリアごとの再配置

- ・公共施設の統廃合と合わせて、市街地を4つのエリアに分類
- ・4つのエリアの特性に合わせて、市民の暮らしやすさを支援できるように公共施設を再配置

2045年の公共施設の配置構想



①医療・福祉機能エリア（市立根室病院周辺）

将来にわたり、市民が健やかにいつまでも暮らしていけるまちに向け、市立根室病院を中心に福祉機能の充実を進めていきます。

②教育・文化機能エリア（総合文化会館周辺）

個性を伸ばし豊かな心と感性を育む、教育と文化活動ができるよう、根室市総合文化会館を中心とした文化機能の充実を図ります。

③健康・スポーツ機能エリア（総合運動公園周辺）

スポーツやレクリエーション活動など、市民の健康保持や増進など、総合運動公園を中心としたスポーツ活動ができる機能充実を努めます。

④行政機能エリア（根室駅周辺）

根室駅を中心に、交通機能の結末点の強化を進め、上記3つのエリアをつなぐ機能強化を図ります。

第5回プロジェクトチームワークショップで得られた意見

公共施設と賑わいづくりの共通意見

- ・賑わいづくりの「6つのコンテンツ」は、市街地中心部に再配置する公共施設や商業機能等と連携した企画・サービスを提供することで、市民利用や回遊性を高める。
- ・4つのエリア間や6つのコンテンツ間の移動を補助する公共交通の充実、徒歩移動を誘導する仕掛けなどを展開する。

根室市公共施設ランドデザイン構想（素案）についての共通意見

ランドデザイン構想（素案）は、主に「構想素案の全体を通してこれまでの意見が踏まえているか」「追加した方が良い視点はあるか」について意見交換を行なった。

ランドデザイン構想（素案）の内容は概ね良い

- ・これまで議論してきた内容が整理されて取りまとめられているため、概ね良い。

各エリアや拠点間を連絡・連携する仕組みが必要である

- ・市街地を4エリアにして公共施設の統合や再配置を進めていくにあたって、国道44号などの幹線道路を活用した公共交通等による市民移動の利便性を向上させていくことが大切である。
- ・国道44号を主軸に4エリア間の行き来を円滑にする動線の確保、4エリア間の回遊性の向上、機能の連担及び連携を図り市民利用を高めていくことが必要ではないか。
- ・「賑わいづくり構想」と連携する際にも、エリア間を連絡・連携する交通などの仕組みが大切になる。

ランドデザイン構想（素案）に基づいて推進していく進め方の検討が必要である

- ・公共施設の統廃合や再配置を進めていく際の計画（建て替え等の順序など）を検討し、推進していくことが大切である。

賑わいの構想について

全体で共通する意見

賑わいづくり構想については、同構想で検討された「6つのコンテンツ」についてグループごとに2つテーマ設定し、そのテーマに沿って意見交換を行なった。

①マルシェ & フードホール

- ・交通結節点となる根室駅での展開も良いが、中心市街地との連携や移動を考えると市役所周辺での展開も想定される。
- ・公共空間を活用した賑わいを創出するだけでなく、新たな仕事や雇用を生み出すコンテンツになると良い。

②屋台村

- ・中心部の一角に屋台村があると市民は行きたくなるのではないか。
- ・ただし、人口減少していくことを踏まえると、人口規模に応じた敷地や施設規模にした方が良いのではないか。賑わいづくり構想内のイメージスケッチは、規模が大きすぎるように感じる。
- ・港町ホテルを宿泊地と考えると、屋台村と同ホテルをつなぐ交通や歩いて行きたくなる歩行空間等の整備も合わせて推進されると良い。

③港町ホテル

- ・賑わいづくり構想内で提案されている「ネイバーカフェ」を活用して、起業したい方を後押しする起業セミナーを開催すると市民利用を高めることができるのではないか。
- ・市内に居住する住民はホテルを宿泊利用することは考えにくいいため、空き部屋、カフェの空いている時間や空きスペースを活用して「市民が主催する講座」などを展開していく。

④コミュニティスクール

- ・「学びのサードプレイス」などを活用して、地元住民や元教員が教える学習塾などを展開すると市民利用が高まる。講師も生徒も根室市民であれば、人口減少中でも世代間交流の機会を生み出すことができる。
- ・観光客にとって普段体験できないことを経験してもらうことが根室らしさにつながるため、地元住民が教える浜の料理教室（飯寿司づくり体験、魚の捌き方など）を展開する。

⑤野遊びフィールド

- ・中心市街地の宿泊地と連携して根室のまちなかツアーを展開する。
- ・鹿打ち体験、バードウォッチングなど、まちなかで1日過ごすことができるコンテンツを地元住民とともに作り上げていく。
- ・野生の馬や高層湿原が見られるユルリ島を地元住民がガイドすることで、地元住民の活躍機会が増える。

「根室市公共施設ランドデザイン構想（素案）※1」及び「賑わいづくり構想（根室 DISCOVERxACTION プロジェクト）※2」に関する意見は以下の通りである。

※1以降は、ランドデザイン構想（素案）とする。

※2以降は、賑わいづくり構想とする。



にぎわいづくり MD 位置 MAP

